



その他の話題もウェブサイトに掲載



未来に羽ばたく 輝く恵那人

今回の輝く恵那人は、市外で活躍する若者を紹介します。

愛知県知立市在住

そでやま れい
袖山 玲さん (23歳)



▶動画では、市民の皆さんへの思いなども語っています。

大井町北関戸出身。小学校3年生の時に海外から恵那に移住。中学からバスケットボールを始め、高校ではバスケット部のキャプテンとして活躍。現在は㈱アイシンのエンジニアとして働いている。



▲表彰台で金メダル獲得を喜ぶ袖山さん(右)。ドイツのシュツットガルトにて

国際大会に向け夢中で技能の向上に取り組んでいたさなか、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催国である中国での大会開催が困難となった。「4年間の努力はどうなるのか。何みせず終わってし

昨年9月7日から11月26日にかけて、第46回技能五輪国際大会が開催された。この大会は、ものづくりなどに携わる世界中の若き技能者たちが技能を競う大会。その種目の一つ、メカトロニクス職種が、市出身の袖山玲さんだ。メカトロニクス職種は、1チーム2人の選手が、工場を想定した生産ラインを、4日かけて完成させる競技。その競技で、見事メダルを獲得した。

袖山さんは、県立中津川工業高等学校を卒業後、アイシン精機株式会社に入社。初めて技能五輪の存在を知った。「訓練に取り組む先輩たちの輝く姿を見て、自分も世界一を目指したいと思った」と話す。1年間の訓練を経て社内選手に選ばれ、技能五輪全国大会に出場。優勝し、国際大会への切符を手にした。

生産ラインに思い乗せて 技能五輪国際大会で金メダル獲得

「もうのか」と目標を失い、「何も手に付かなくなった」と当時の苦しかった心境を振り返る。その後、大会関係者の中で話し合いがされ、世界15カ国で分散開催することが決まった。

一日一日、悔いを残さぬよう臨んだ国際大会。競技や審査の他、作戦会議なども含めると1日14時間も費やす過酷な日程の中、全力を出し切った。結果は、金メダル。目標だった世界一の座を勝ち取った。「期待に応えることができている。感謝しかない」と笑顔で話す。今後は、技能五輪選手を卒業し、さらに技能を磨いて、夢である海外勤務を目指す。「海外で働き、世界の多様な価値観に触れたい」と話す袖山さんの瞳は、真つすぐに未来を見つめていた。



▲競技中、生産ラインの動作を最終チェックする

※令和3年4月経営統合で、株式会社アイシンへ社名変更



12/9

子どもたちの視点で、快適な避難所へのプレゼンテーション

学校での避難所設営訓練の体験をもとに、武並小学校、三郷小学校、大井第二小学校、恵那東中学校の児童生徒が、避難所の改善点などを市に提案しました。幼児や高齢者が快適に過ごす工夫や犯罪対策など、さまざまなプレゼンテーションがありました。



12/11

中山道沿線を彩ったのれんコンテスト表彰式

第13回中山道のれんコンテストとして、昨秋に中山道沿いに展示された190点の手作りのれん。その中から、37の個人と団体が表彰されました。市長賞は、大井町の加藤直子さん。「コンテストが楽しみで、毎回出品しているのでうれしいです」と受賞を喜びました。



12/13

食と観光の国際フォーラムで串原の中山太鼓がおもてなし

12月12日から15日、国連世界観光機構主催のガストロノミーツーリズム世界フォーラムが奈良市で開催され、中山太鼓が披露されました。フォーラムは日本初開催。世界各国から約500人が参加しました。代表曲「神囃子」では参加者と一緒に叩き、日本文化を楽しみました。



12/16

合格を勝ち取ってと、南高生が「しみチョコ勝ち栗」を贈呈

恵那南高等学校では栗の6次産業学習で、受験生応援グッズ「しみチョコ勝ち栗」を毎年製作しています。本年はパッケージを絵馬の形に一新し、近隣の高校に通う受験生に贈呈しました。同校3年生の熊崎瑠華さんは「これを食べ、努力の成果を発揮して」と応援しました。



12/22

歴史ある全国の大会で岩村の獅子舞を披露

11月に開催された第69回全国民俗芸能大会に岩村町獅子舞保存会が出演。同会員が報告に訪れました。1925年から続く同大会には、今回5団体が招待され、熱い舞台を披露。獅子の踊り手、藤井孝司さんは「舞台を隅々まで使い、練習の成果を発揮できました」と話しました。



1/9

規模を縮小して出初式を開催とびはしご登りが華を添える

新年恒例の消防出初式が市消防防災センターで行われました。感染症対策のため本年も分列行進などは中止し、規模を縮小して開催。式典では、消防功労者として316の個人と団体が表彰され、消防音楽隊やらっば隊の演奏、恵那とびはしご登りの演技が華を添えました。